

## 1. 教育目標

### 「人とつながる音楽家」の育成

#### ① 実技力のさらなる進化を希求する生徒の育成

- ・将来音楽専門家として活躍するために必要な基礎力を培う。
- ・自らの専門性を高め、国内外のさまざまな音楽シーンをリードする音楽家の育成を目指す。
- ・音楽を通してのキャリア教育を意識し、それぞれの授業における目標を明確にする。
- ・生徒自身が自らの目標を高く掲げ、その実現に向けて自発的に音楽に取り組み、自己調整していく力を培う

#### ② これからの時代の中で、自己実現に向かうことのできる学力を持つ生徒の育成

- ・ことばの力をはじめ、基礎となる教養を醸成する。  
～生徒が自らを社会の中で生かし、日本をはじめ広く世界で社会に貢献するために～
- ・生徒自らが学びを獲得することができる工夫をする。  
～主体的で対話的な深い学びを実現する授業等を通して～
- ・授業の目的・目標を明確にし、校内外の指標や評価を積極的に求める。
- ・常に授業改善に努め、進路実現にも対応できるよう、授業の質を高める。

#### ③ 音楽家が人とつながっていくために不可欠な人間力の育成

- ・教育活動のすべての場面を、生徒自らが豊かな感性・情操を培う機会として活用する。
- ・音楽の力に生徒が気づき、その発信者となれるよう働きかける。(音楽が自他や社会に影響を与え、豊かな人間、よりよい社会の実現に寄与できるなど)
- ・生徒が世界の中の京都の文化的な風土・特性を十分に理解し、伝統の上に立ちながら、自分の音楽を創造していく気概を持てるような機会を作る。

## 2. 学校経営方針 ～次のキーワードを方針として、3. 以下の目標と課題を設定する～

- ・生徒が学びを自ら獲得
- ・よりよい個別最適化
- ・決定のプロセスへの参加
- ・実効あるCap-Do
- ・志願者確保
- ・ウェルビーイング向上

## 3. 学校経営目標と具体的な課題

- (1) 認知能力と非認知能力の双方を育成することを明確に意識し、意図を持った計画を立てる。
- (2) すべての教科・科目に共通して流れる理念や視点を生かし、学びが一つにつながっていると感じられる教育を実現する。
- (3) 目標および必要な情報の共有と、適切な評価を行い、効率的・効果的に業務を遂行する。
- (4) ひとりひとりが、学校経営への参画の意識を持ち、決定のプロセスへ参加する。
- (5) 教職員が互いに敬い合い、連携の形を追究しながら、教育活動を推進する。
- (6) 授業改善・業務改善を常に意識する。
- (7) 日々自身の専門性の研鑽と幅広い教養の獲得に努める。
- (8) スクールポリシーと今後の堀音についての議論を深めると同時に、生徒募集のあり方を検討実行する。

#### 4. 具体的な課題

##### (1) 認知能力と非認知能力に支えられる「音楽力」

- ・非認知能力についての理解と、その伸ばし方や評価を検討
- ・非認知能力の面から見た「総合的な探究の時間」の構築

##### (2) 「自ら学ぶ」と「学びのつながり」に関与する、すべての教育活動を貫くもの

- ・学んでいる音楽の土台部分で全教科を貫くもの（例えば共通言語である「楽譜」）を見つけ出す。
- ・音楽以外の自己表現として「言語化」を重視
- ・自分も周りも幸せになるための「人権教育」と、育まれた3観点の資質能力を正しい方向で使うための「道徳教育」の活用

##### (3) Cap-Doとウェルビーイング

- ・Cap部分の意識と精度向上
- ・情報の共有ツールの活用
- ・退校時間と定時退勤日の設定と、割振り変更や時差出勤の堀音におけるの在り方の検討

##### (4) 決定のプロセスへの参加

- ・分掌やチームでの原案作成
- ・運営委員会や各種会議の記録共有と意見集約

##### (5) 適切な協力・協働

- ・役割分担の見える化
- ・音楽科非常勤講師への情報や意識の共有とレッスン時間の管理の再構築

##### (6) 授業・業務の改善

- ・評価・評定に係わる検討及び実施
- ・生徒のICT活用の充実
- ・音楽だけでなく様々な「本物」に触れる機会の創出
- ・個別最適化（支援・指導も含めた）の見える化と共有
- ・分掌業務の課題の見える化とリスク管理の徹底

##### (7) 自己研鑽

- ・今年度の行動目標の設定

##### (8) 堀音の今後

- ・これまでの生徒募集に係わる取組のブラッシュアップと新たな取り組みの実施
- ・閉鎖的、敷居が高いイメージの払拭
- ・スクールポリシーの策定
- ・今後の堀音についての検討
- ・令和9年度選抜の円滑かつ確実な実施